

# ダウントピックス

北海道立林業試験場

34

## 木の実の豊凶とヒグマの出没

ブナやミズナラの種子生産量は、年によって大きく変動します。こうした種子生産の年変動（豊凶）は、種子を食料とするヒグマの行動や個体数にも影響を与えます。種子生産量が少ないことが人里へのヒグマの出没を多くする主な原因と言われていますが、このことを定量的に実証した例はこれまでありませんでした。

そこで、渡島半島におけるブナ・ミズナラの種子生産量とヒグマの秋季（9 - 11月）の捕獲数の関係を9年間にわたり調査した結果、ブナもしくはミズナラが豊作だった3箇年（1992、1994、1997年）ではヒグマの捕獲数が少なく、それ以外の6箇年では捕獲数が多い傾向が認められました。すなわち、ヒグマの秋季の捕獲数はブナ・ミズナラの種子生産量によって説明できることが明らかになりました。特に、オスグマはこの関係が顕著で、凶作年には餌を求めて行動圏を拡げ捕獲されていることがわかりました。

（防災林科）

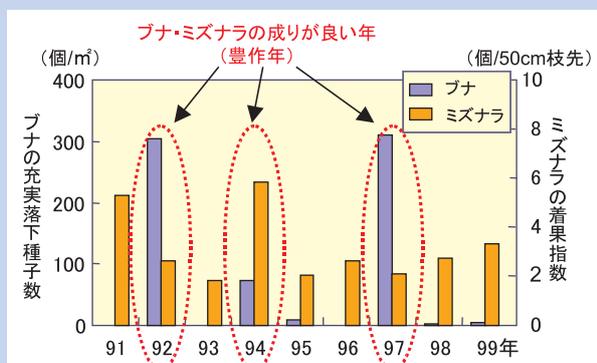


図 - 1 渡島半島におけるブナとミズナラの種子生産量の推移。ブナの種子生産量は、6林分の平均。ミズナラの種子生産量は、11個体の平均。

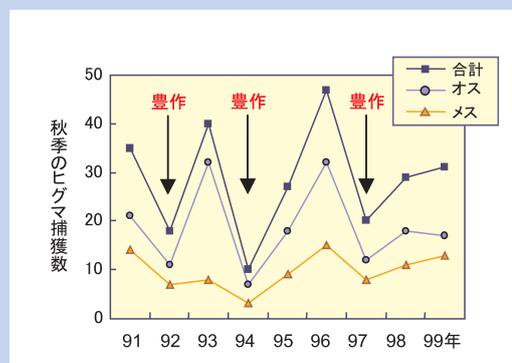


図 - 2 渡島半島における秋季（9 - 11月）のヒグマ捕獲数\*の推移  
\*有害駆除と狩猟の合計。

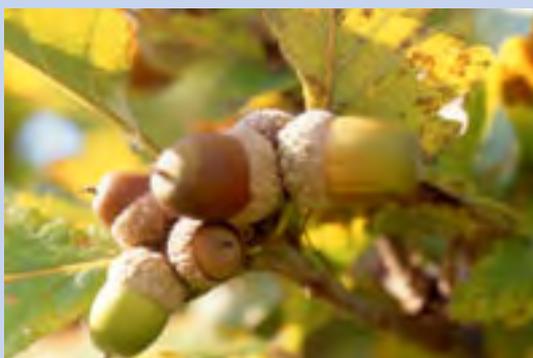


写真 - 1 ミズナラの種子



写真 - 2 ヒグマ